

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-34	小学校	算数科	算数	1
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・101 算数・102	あたらしいさんすう ① さんすうのとびら あたらしいさんすう ② さんすうだいすき!		

1. 編修の基本方針

豊かな学びが未来を拓く

私たちは、子どもたちに、予測困難な未来の社会に主体的に関わり、自立した人間として幸福な人生とよりよい社会を実現してもらいたいと願っています。

そして、算数科に対しては、数学的な視点から物事をとらえ、統合的・発展的に考えることに加えて、創造性を追求したり、自他の価値を尊重し真理を求め続けたりする態度などを培うことが期待されていると考えます。

本教科書は、教育基本法の理念を踏まえ、算数科における主体的・対話的で深い学びを具現化し、未来を拓くために必要な資質・能力の育成をめざして編集しました。

特色

1

考えることが、
ますます
楽しくなる

数学的な見方・考え方を働かせ、
学びをつなぎ、深める。
そして、考えることを楽しむ。
このような学習過程の実現をめ
ざしました。

特色

2

学んだことを、
いろいろ
生かすことができる

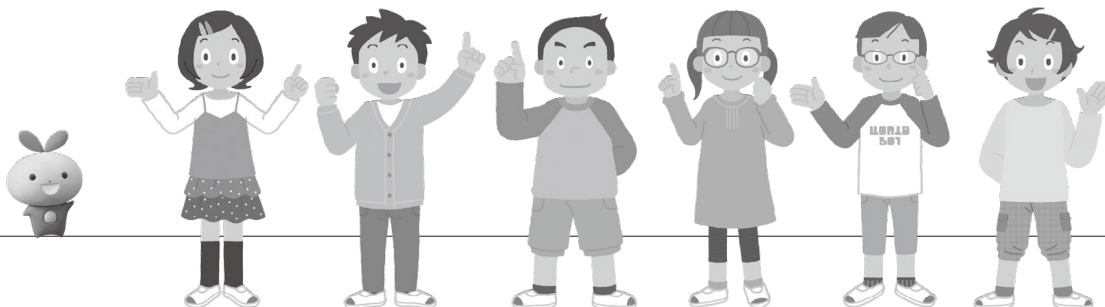
学んだことを、算数の学習や身
近な問題の解決に生かし、生き
て働く知識や技能に熟達する。
学びを生かす力の育成をめざし
ました。

特色

3

これからも、
どんどん
学び続けたいくなる

学びをふり返り、学びの価値や
自身の成長を実感し、新たな課
題をつくり出す。
粘り強く学ぶ心、学び続ける心
を強くすることをめざしました。



考えることが、ますます楽しくなる

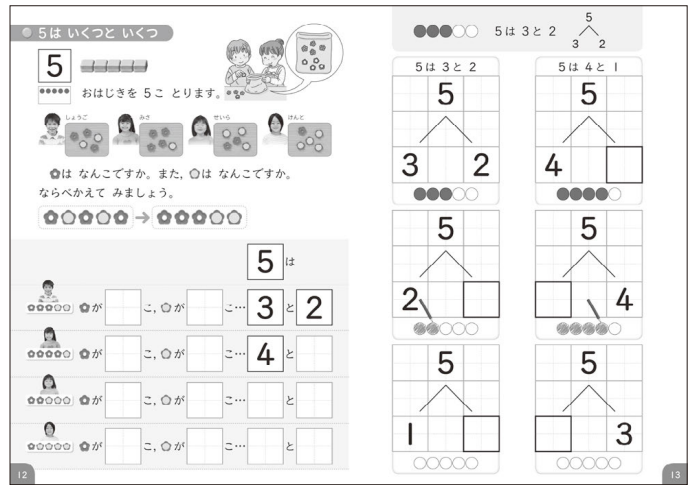
1 第一分冊は、ノートの機能も備えた新仕様の教科書です～A4判化のメリット活用1

入学直後の1年生には、机に教科書とノートを出して学習することは困難です。そして、必要に応じてそれらを出したりしまったりということにも困難を感じます。結果として、学習の準備に多くの時間を要してしまうことになります。

そこで、第1学年の教科書を入門期の学習に特化した第一分冊①、上学年と同様の使い方を想定した第二分冊②の2分冊構成としました。そして、第一分冊はA4判としてワイド化し、ノートの機能を併せもたせました。

このことにより、学習の準備にかかる時間を軽減し、算数の学習自体に向き合う時間を長くすることが

できます。また、以後使用するノートをイメージした書き込み枠を豊富に設け、筆記適性に優れた書き込みやすい用紙を使用することにより、教科書のみを使ってノートづくりの素地を培うことができます。



① p.12-13

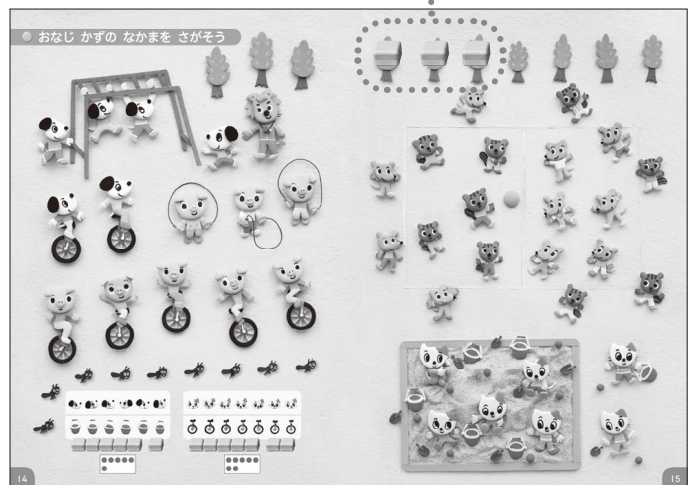
2 よりワイドな紙面を実現します～A4判化のメリット活用2

入門期における数の学習では、紙面に掲載した要素に算数ブロックを置いて対応させます。

しかし、従来のB5判の紙面では、紙面のスペースの関係上、ブロックが近接しすぎてうまく置くことができませんでした。

第一分冊をA4判化することで、紙面に掲載した要素と要素の間にゆとりが生まれ、無理なく算数ブロックを置くことが可能です。

ブロックを置いたときのイメージ



② p.14-15

3 本の綴じ方を工夫し、よりフラットな状態を実現します

従来の教科書の綴じ方では、綴じ代の部分が開きにくい、開いたときに紙面がフラットにならない、本を開いたときの中央部分付近に算数ブロックを置きにくい、などの課題がありました。

そこで、第一分冊は綴じ代が不要な中綴じとすることで紙面を開いたときの膨らみを最小限に抑え、1年生の児童でもよりフラットに近い状態を簡単につくることができるようにしました。

第一分冊は、算数との出会いや関わりを重視し、長年に渡る1年生教科書の課題を克服しました。算数に夢中になり、考える楽しさを存分に味わう土台を築きます。

特色

2 学んだことを、いろいろ生かすことができる

1 就学前に育った数量や図形などへの関心・感覚を引き出し、発揮させます

幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿のうち、特に算数科の学習内容と親和性が高いものに数量や図形、文字等への関心・感覚があります。

スタートカリキュラムにおいては、これらを引き出し、発揮することが重視されています。

そこで、第一分冊のp.1には、就学前の数量や図形などへの関心・感覚を引き出し、発揮させるためのページ「くらべたことがあるかな」を新設しました。

就学前の経験を生かして学習していけばいい、という安心感と自信をもち、スムーズに算数の学習に入ることができます。

既習を生かして考えようとする態度を、本ページをきっかけとして育てていくことができます。



(①p.1)

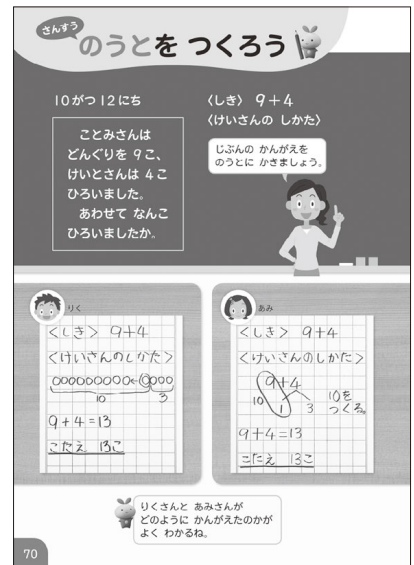
2 身のまわりの事象や既習を生かして、学習課題をつくります

身のまわりの事象や既習を生かすことを通して、算数の課題を見だし単元の課題をつくるためのページ「単元プロローグ」を設定しました(②26, 36, 60, 76)。

3 第一分冊で培ったノートづくりの素地を生かして、ノートづくりを進化させます

ノートを、思考の過程を表現する場ととらえ、学習の記録として積み上げることで、思考力・表現力が育ちます。

第一分冊におけるノートづくりの取り組みを踏まえ、進化したノートの例を掲載しました。なお、ノートづくりのページは、第2学年以降さらに進化させていきます。



(②p.70)

特色

3 これからも、どんどん学び続けたいくなる

1 「もっとやりたい」を児童から引き出す学習を重視しています

例えば、繰り上がりのあるたし算は、以後の学習を見据えると熟達が必須です。しかし、ドリル型の練習ばかりでは集中力や学習意欲は低下します。

そこで、1年生の発達段階に配慮しながら、友だちと協働で取り組むゲーム的な活動や、知的好奇心をくすぐるきまりを見いだす学習活動を豊富に掲載し、児童の学習意欲を高めることができました。



(②p.67)

2. 対照表

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
各単元	単元プロローグ、導入	・児童の日常生活を中心に多方面から素材を収集し、学びに向かう意欲を高め幅広い知識と教養を身に付けられるようにしました。(第1号)	・① 1~2, 36~37, ② 26, 32, 72 など 各単元の導入
	各時の問題や学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学びに向かう意欲を高めるゲーム的な学習活動を適宜取り入れ、きまりを守りながら取り組む大切さを学べるようにしました。(第1号) ・他者との交わりを通して、自分の考えを自ら進んで表現できるように、多くの場面を例示するようにしました。また、発達段階に配慮しながら、他者の考えを数学的に解釈しようとする活動例も示しました。(第2号) ・他者と協働して行うお話づくりやゲームなどの学習活動を数多く取り上げるようにし、絵や写真も他者と仲良くすることの楽しさなどが感じ取れるものを掲載しました。また、2人組以上の活動事例を男女の組で示すようにしました。(第3号) ・小動物や花などの種類、数を調べる活動など、生物や自然と触れ合う場面を学習の素材として取り上げ、自他の生命を尊重する心が育つようにしました。(第4号) ・自分が暮らす地域と関連づけて考えたり、日本らしい美しい作法が読み取ったりできるように、学校や公園、社会生活などを学習の場面として取り上げました。(第5号) 	<ul style="list-style-type: none"> ・① 20, 22, 24, 26, ② 67, 83 など ・② 29, 68, 72~73, 84 など ・① 12, 20, 22, 24, 26, 32~33, 44, ② 27, 29, 60, 67, 72~75, 91 など ・① 5, 15, ② 2~7, 11, 14~17, 21~22, 24, 26 など ・① 3~7, 14~15, ② 11, 24, 48, 108 など

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

I すべての児童が使いやすい紙面への配慮

① 特別支援教育への配慮

- ・すべての文章において、**文節改行(文節の切れ目で改行)**を徹底し、文章を読み取りやすくして、文章の読解の段階でつまずく児童が算数の学習に取り組みやすくなるよう配慮しました。
- ・**問題やまとめを枠で囲む**などして、一目でとらえやすくなるようにしました。
- ・**ページ番号を表す数字を、一目で他と区別できるデザイン**にしました。

② 人権上の配慮

- ・ガイドキャラクターの性別を明確にしない、男子は青色の服、女子は赤色の服またはスカートなど、固定的なイメージで性の区別をしないように配慮しました。
- ・活動場面では、男女の比率やそれぞれの役割に偏りのないよう配慮しました。

③ ユニバーサルデザインへの取り組み

- ・字体は、**独自に新開発したUD教科書体**を採用しました。このUD教科書体は、**従来の教科書体に比べてさらに太く、視認性をいっそう向上させた**ものです。
- ・すべてのイラスト、写真、図などを、**カラーバリアフリーに取り組むボランティア団体の協力を得て全ページに渡って点検**し、すべての児童に見やすく分かりやすい紙面になるよう配慮しました。

④ 造本上の工夫

- ・専用の軽量で丈夫な用紙の採用、第一、第二の2分冊構成により、**重量による身体的負担の軽減**に配慮しました。
- ・第一分冊にはノートの機能も併せもたせるために、**筆記適性にもすぐれた用紙**を採用しました。

2 今日の課題への取り組み

⑤ 指導経験の浅い先生方への配慮(教材研究, 教材準備などの支援)

- ・指導計画案, 教材の解説, 各時で働かせる数学的な見方・考え方の解説, 展開案, 評価規準, 板書例, 評価問題などで構成した教師用指導書を発行し, **教材研究の効果, 効率を向上させ, PDCA サイクルの遂行を支援**します。
- ・指導者用デジタル教科書(教材)を発行し, **教材研究, 教材準備の効果, 効率の向上を支援**します。

⑥ 複式学級指導への取り組み

- ・関連する内容の単元をできるだけ同時期に配置して, **複式の年間指導計画を立てやすいように配慮**しました(例:1年「大きい数」と2年「4けたの数」, 1年「どちらがひろい」と2年「長いものの長さのたんい」, など)。

⑦ 道徳教育との関連への取り組み

- ・バス停に順序よく並ぶ場面を採用し, **集団や社会との関わりに関連して, 規則やマナーについて考えられるように**しました(②40, 118)。
- ・他者の考えを検討する場面を示して, **公平, 公正に数学的な視点から検討**することを可視化しました(②119)。

⑧ 防災, 安全教育への取り組み

- ・帽子の着用, ランドセルカバーの使用など, 学校における安全教育と関連して, **安全に対する意識を高められるイラスト**を採用しました(①6~7, ②48, 108)。

⑨ キャリア教育への取り組み

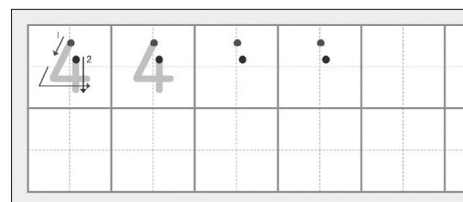
- ・各自の役割を果たすことが**重要な場面や活動例**を取り上げました(②29, 74 など)。

⑩ カリキュラムマネジメントへの取り組み

- ・15分程度の短時間学習を活用して断続的に取り組める学習活動の一例(10の補数を考える)を取り上げ, **弾力的な時間割編成に対応**できるようにしました(②59, 71)。

⑪ 幼児期の学びとの接続への取り組み

- ・就学前に育った数量や図形などへの関心・感覚を引き出し, 発揮するきっかけをつくるページ「くらべたことがあるかな」「おおいのはどちらかな」を新設しました(①1~2)。
- ・**スタートカリキュラムの前提**となる, **経験や遊びの中から育った関心や感覚を引き出し, 学習に発揮することを重視**し, 学校生活や他教科の学習場面を多く採用しました(全体)。
- ・入門期では, 多様な個に応じながら算数の学習の土台作りができるように, 数字を書き始める位置を●で示したり, 書き込みスペースを充実させたりして, 知識・技能の平準化を図りやすくしました。



(① p.9)

3 その他の取り組み

⑫ 教育のICT化への取り組み

- ・たし算, ひき算の熟達, 時計の読み方, 絵グラフの作成, 図形の構成活動など, **学力向上をねらいとした無料*のデジタルコンテンツ**を豊富に用意しました。コンテンツが用意されている箇所には**㊦**(ディーマーク)を配しています。

そして, 表紙裏ではマークの意味とコンテンツへのアクセス方法を説明するとともに, 二次元コード, URLを掲載しました。いろいろな端末で, 簡単に使用することができます。

※デジタルコンテンツを使用する際の通信費は自己負担となります。

- ・使用する際の留意事項(使用の際には, **まず先生や保護者に相談するよう指導すること**)を明示しました。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-34	小学校	算数科	算数	1
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・101 算数・102	あたらしいさんすう 1① さんすうのとびら あたらしいさんすう 1② さんすうだいすき!		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色

考えることが、ますます楽しくなる

新学習指導要領では、「数学的な見方・考え方」を働かせることが学習の前提となっています。この「数学的な見方・考え方」は、単に一般的な言葉で分類・整理すれば働かせることができるようになるものではありません。確かな教材研究に基づいた授業の文脈に即しながら明示し、価値づけることが大切であると考えます。

1 「数学的な見方・考え方」を明示し、価値づける指導を重視します

- 例えば、繰り上がりのあるたし算(② 61~62)については、第1~2時において $9+4$ の計算方法を考えます。そして、「9はあと1で10」という数の見方に注目して計算方法を考え、まとめます。

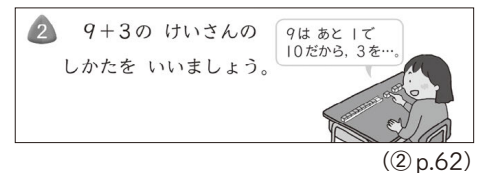


- 次に、練習問題で $9+3$ の計算方法について考え、同じように「9はあと1で10」という数の見方を児童の吹き出しで明示します。



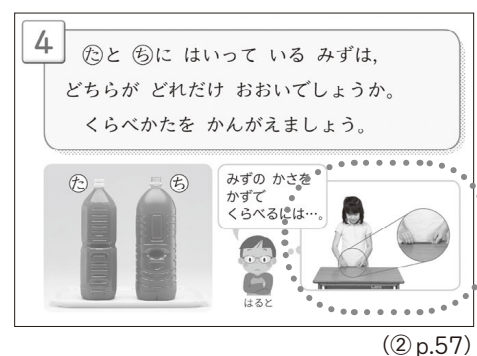
- 第3時においては、被加数が8, 7の場合について「8はあと2で10」「7はあと3で10」という数の見方に注目して計算方法を考えます。

そして、第1~3時で働かせた数学的な見方・考え方を統合し、授業の文脈に即して「10といくつになるように、うしろの数をわけるといいね」とガイドキャラクター吹き出しで明示し、価値づけます。



ほかにも、例えば水のかさの学習において、既習の長さを測定したときに働かせた数学的な見方・考え方を紙面上で明示し、量の数値化の際の見方・考え方として統合的にとらえられるようにします。

数学的な見方・考え方を明示し、価値づけることで、**学びのつながりを実感**することができ、考えることを楽しめるようになります。



2 学んだことを、いろいろ生かすことができる

児童の学びは、学習内容の理解や熟達、学び方、問題解決の際の着想や態度、学習規律など多岐に渡ります。新学習指導要領の教科目標の冒頭にある“数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して”学ぶ姿の一例として、“学びを生かす学び”をデザインし、具現化することで、深い学びが実現すると考えます。

1 就学前に育った関心・感覚を生かします

新学習指導要領では、第1学年において、“幼児期において育まれた数量・図形への関心・感覚などの基礎の上に、算数の学習を始めるにあたって必要となる資質・能力の育成を図る”ことが明記されています。

第一分冊(①)巻頭「くらべたことがあるかな」「おいしいのはどちらかな」では、就学前に育った数量・図形への関心・感覚を引き出し、これから始まる算数の学習で発揮することができるようにします。



(① p.1-2)

2 単元の導入で、既習をふり返り生かして、単元の学習課題をつくり出します

単元の導入では、学習内容や1年生の発達段階を踏まえながら、日常の場面や既習を取り上げ、それらを生かして単元の学習課題をつくり出すためのページ「単元プログラム」を設定しました。

自ら課題をつくり出し、主体的に学習する態度を育成することができます。



(② p.26)

(② p.76)

3 学習したことを、生活や他教科の学習で生かすことを重視します

各単元の学習では、身のまわりの場面、生活科、図工など他教科と関連する場面を多く採用し、生活や学習活動全般で算数の学習を生かすことができるように配慮しました(② 32, 61, 94~95 など)。

学習を生かす経験の積み重ねが、生きて働く知識や技能の熟達や、学習を生かそうとする態度の育成につながります。

3 これからも、どんどん学び続けたいくなる

新学習指導要領の教科目標には、学習をふり返ってよりよく問題解決しようとする態度を養うことが位置づけられています。この目標の実現のためには、問題解決後に学びを価値づけ、新たな課題を見だし追究しようとする態度の育成が欠かせないと考えます。

1 「よりよく解決したい」を重視しています

算数の学習では、問題を解決したらそこで終わりではなく、そこから、よりよい解決方法を追究する学習が始まるという学習観を育てたいと考えます。

1年生の発達段階に配慮しながら、よりよく問題解決しようとする態度を養うことを重視しました。

数えなくても、計算で答えを求めたいと考える児童の姿を例示しています

1

ことみさんは どんぐりを 9 こ、
けいとさんは 4 こ ひろいました。
あわせて なんこ ひろいましたか。

しぎ

1, ..., 9, 10, 11, 12, 13。
かぞえれば こたえは
わかるけど…。

こたえが 10 を
こえるよ。

りく

あみ

(② p.61)

2 「だったら〇〇のときは？」と考えることを重視しています

1つの問題を解決した後、「数を変えたら」「形を変えたら」などと発展的に考え、追究しようとする態度や力を育てたいと考えます。

1年生の発達段階に配慮しながら、発展的に考える姿を例示しました。

1

かずを わかりやすく せいりしましょう。

① せいりの しかたを
かんがえましょう。

おおきさが
ちがうと
わかりにくいね。

りく

(② p.32)

2

5つの ますに
かずを いれましょう。
つくれたら、こたえを
たしかめましょう。

まず、10を 2つの
かずに わけて…。

りく

いろいろ
つくれそうだね。

みさき

(② p.89)

3 学習を価値づける児童の姿を例示しています

学習の終わりに、学習したことを価値づける児童の姿を例示しました。学習をふり返り、価値づけることで次の学習に生かしたり、次の学習をつくり出したりしようとする態度を育てることができま。また、学習後の児童の姿の一例として、評価の手がかりとすることもできます。

③ きづいた ことを いいましょう。

ずにかくと、ぜんぶの かずが
はっきり あらわせて よかったです。

あみ

(② p.119)

学習をふり返り、価値づけたり、よりよく問題を解決しようとしたりする態度は、1年生から培っていくことが大切です。

観点別特色の一覧

<p>教育基本法の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●他者と協働して行うお話づくりやゲームなどの学習活動を数多く取り上げるようにし、絵や写真も他者と仲良くすることの楽しさなどが感じ取れるものを掲載しました。(全体) ●数学的な判断に基づき他者の考えを解釈、検討することを重視しました。これにより、自他の価値を尊重してその能力を伸ばし、創造性を培えるようにしました。(全体)
<p>学習指導要領の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校学習指導要領(総則編)の基本方針である授業改善の推進を受けて、資質・能力の育成のための優れた研究や実践の成果をもとに紙面を編集しました。(全体) ●小学校学習指導要領(算数編)に示された目標に則り、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通した学習展開を重視しました。(全体)
<p>学びの 系統性・連続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「単元プロローグ」を設定して既習をふり返って学習課題をつくったり、問題解決の過程に位置づく吹き出しなどにおいて既習とのつながりを明示したりして、学びの系統性や連続性を意識できるようにしました。(②36, 60, 76など)
<p>組織・配列・分量</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎的・基本的な内容をスパイラルに学習することに重点を置き、1つの学期に確実な技能熟達を求められる内容が集中したり、同一領域の内容を集約してそれぞれを軽く扱ったり、いくつも連続したりすることのないように単元の構成、配列を工夫しました。(全体) ●熟達に時間を要する内容は、2つの単元に分けて段階的に取り扱うようにしました。また、計算単元などは、単元末に練習ページを新設したり、練習の機会を増やすよう学期末や学年末の配置を避けたりするなどの配慮をしました。(整数の加減計算など) ●練習問題は、本時の学習内容を適用して理解の確認や技能の熟達を確実にできるように、内容と時間を考慮して適切な分量を扱うようにしました。(全体)
<p>知識や技能の 熟達への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●発達段階に応じたゲーム的な活動をふんだんに取り入れ、これらの活動を通して楽しみながら熟達できるように配慮しました。(②9, 18, 67~68, 83~84など) ●各時の展開において、数学的な見方・考え方を働かせて既習と当該の学習をつなぐことを強調し、知識や技能の断片的な詰め込みではなく、発達段階に配慮しつつ体系化しながら獲得することを重視しました。(②57, 61~63, 77~79など) ●復習ページ「おぼえているかな？」を適宜設定しました。各種学力調査の分析結果をもとに問題を厳選し、熟達度合いを維持、向上させることができるようにしました。また、次単元のレディネスとなる問題にはじゅんびを付し、つまずきやつまずきへの事前対応に活用できるようにしました。家庭学習でも活用することができます。(②13, 35, 50, 59, 71, 90) ●ICT活用の一環として、加減計算の熟達などのためのデジタルコンテンツを用意し、該当の紙面にはBを配しました。即時的な正誤判定機能を有し、児童が楽しく飽きずに練習できるようにしました。(②9, 18, 67, 83)
<p>思考力・判断力・表現力の 育成への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●思考し、表現する学習活動を適切に取り入れました。特に、思考を操作で表現する、図や式に表す、といった学習活動を重視しました。(①3~5, 11, 13, ②2~6, 14~16, 112~119など) ●思考を表現する場としてノートづくりを重視し、第一分冊では、教科書のみを使用してノートづくりの素地を培える判型(A4判)、内容にしました。また、第二分冊「さんすうのうをつくろう」では、自分の考えを図や式などを用いて表現する例を掲載しました。(①全体, ②70)
<p>学び続けようとする態度の 育成への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生の発達段階や学習内容に配慮しながら、よりよく問題解決しようとする姿を例示しました。(②61, 77など) ●1年生の発達段階や学習内容に配慮しながら、問題を解決した後、さらに発展的に考えようとする姿を例示しました。(②32, 89など)
<p>学習方法、展開の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生の発達段階や学習内容に配慮しながら、問題解決型の学習展開を取り入れました。(②65~66, 81~82, 118~119など)
<p>短時間学習への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●15分程度の短時間学習において断続的に取り組める学習活動の一例(10の補数を考える)を取り上げ、弾力的な時間割編成に対応できるようにしました。(②59, 71)

他教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●各単元の学習では、身のまわりの場面、生活科、図工など他教科と関連する場面を多く採用し、生活や学習活動全般で算数の学習を生かすことができるように配慮しました。(② 26, 32, 94～95 など) ●属人的な判断ではなく、論理に基づいて判断することを積み重ねることで、自他の価値を尊重する態度を養うなど道徳教育との関連に配慮しました。(全体)
幼・小の 接続への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●就学前に育った数量・図形などへの関心・感覚を引き出し、発揮させるきっかけをつくるためのページ「くらべたことがあるかな」「おおいのはどちらかな」を新設しました。(① 1～2) ●入門期では、多様な個に応じながら学習の土台作りができるように、数字を書き始める位置を●で示したり、書き込みスペースを充実させたりして、知識・技能の平準化を図りやすくしました。(①全体)
教育のICT化に伴う 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●計算技能の熟達、統計学習の充実などをテーマとし、多様な端末で使用可能なデジタルコンテンツを用意しました。(① 30, ② 33, 67, 109 など) ●制度化された学習者用デジタル教科書を発行予定です。ビューアによる色反転や自動読み上げ、総ルビなどの機能を使用することで、特別支援教育にも効果的です。 ●指導者用デジタル教科書(教材)、学習者用デジタル教材も発行予定です。
特別支援教育, ユニバーサルデザインへの 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●色数を減らして落ち着きを出し、余白を生かしたレイアウトとしました。(全体) ●新開発のUD教科書体を採用し、文字の視認性を格段に向上させました。(全体) ●堅牢かつ軽量の紙を使用し、重量による身体的な負担の軽減に努めました。(全体) ●拡大教科書を、文字のポイント別に複数種類発行予定です。

2. 対照表

配当時数計：119(予備時数：17)

配当月	配当時数	単元名	学習指導要領・内容名	該当箇所 (①巻)
4	1	●くらべた こと が あるかな ●おおいのは どちらかな	幼児期の学びの想起	1～2
	14	①なかまづくりと かず	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)(I)(ク)イ(ア)	3～35
5	2	②なんばんめ	A(1)ア(イ)イ(ア)B(1)ア(ウ)	36～39
	1	●どのように かわるかな	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)(I)(ク)イ(ア)D(1)ア(ア)	40～41
	1	●しあげよう	A(1)ア(ア)(イ)(I)(ク)	42～43
(②巻)				
6	8	③あわせて いくつ ふえると いくつ	A(1)ア(I)(2)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)	2～12
7	9	④のこりは いくつ ちがいは いくつ	A(1)ア(I)(2)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)	14～25
	4	⑤どちらが ながい	C(1)ア(ア)(イ)イ(ア)	26～31
	2	⑥わかりやすく せいりしよう	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)D(1)ア(ア)イ(ア)	32～34
9	9	⑦10より おおきい かず	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)(I)(オ)(キ)(ク)イ(ア)(2)ア(I)イ(ア)	36～47
	1	⑧なんじ なんじはん	C(2)ア(ア)イ(ア)	48～49
	3	⑨3つの かずの けいさん	A(1)ア(I)(2)ア(ア)(イ)(ウ)(I)イ(ア)	51～54
10	4	⑩どちらが おおい	C(1)ア(ア)(イ)イ(ア)	55～58
	10	⑪たしざん	A(1)ア(I)(2)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)	60～69
11	4	⑫かたちあそび	B(1)ア(ア)(イ)イ(ア)	72～75
	11	⑬ひきざん	A(1)ア(I)(2)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)	76～85
12	2	●どんな けいさんになるのかな?	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)	86～87
	2	●けいさんびらみっど	A(1)ア(I)(2)ア(ア)(イ)(ウ)(I)イ(ア)	88～89
1	14	⑭おおきい かず	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)(I)(オ)(カ)(キ)(ク)イ(ア)(2)ア(I)イ(ア)	91～105
	1	⑮どちらが ひろい	C(1)ア(ア)(イ)イ(ア)	106～107
2	2	⑯なんじなんぶん	C(2)ア(ア)イ(ア)	108～110
	1	●ビルをつくろう	A(1)ア(I)(ウ)イ(ア)(2)ア(イ)	111
	5	⑰たしざんと ひきざん	A(2)ア(ア)(イ)イ(ア)	112～119
3	5	⑱かたちづくり	B(1)ア(ア)(イ)イ(ア)	120～124
	3	●1ねんの ふくしゅう	A～D	125～128